

議 長	会議を再開します。 (午後1時00分)
々	これより、中平議員の一般質問を行います。中平議員。
3番	皆さん、お疲れさまです。3番議員の中平でございます。
中平議員	<p>今年の冬は雪も積もり寒い日が続きました。寒さをしのぐため、ストーブをたけば灯油はすぐになくなり、高い灯油を何度も買いに行きました。正に体にも財布にも寒い冬となりました。やっと春らしくなり、気持ちも上向いてきた今日この頃です。昨日は、東日本大震災から14年を迎え、議会中の午後2時46分に議員全員で黙祷を捧げました。今まで生きてこられたことに感謝をし、2項目の一般質問に臨みたいと思います。</p> <p>1項目めは、女子硬式野球クラブ、島根フィルティーズの今後の活動について問う、であります。</p> <p>島根フィルティーズは、女子野球で繋がるプロジェクトとして、4月から本格的に活動すると伺っております。川本町が昨年女子野球タウンに認定され、今後、女子野球の町としてPRすることが、関係人口、交流人口の拡大につながるものと期待しております。このプロジェクトを町民に広く知ってもらい、島根フィルティーズが町民から応援してもらえるチームになって欲しいと願っております。島根フィルティーズの今後の活動についてどのように考えておられるか。また町民への周知や関わり方をどう考えておられるのかを問います。</p> <p>2項目めは、中学校の部活動の地域移行について問う、であります。</p> <p>中学校の部活動の地域移行については、令和4年9月議会の一般質問で取り上げました。文部科学省から部活動の地域移行という方向性が示された経緯について説明があり、令和5年から3年間をかけて段階的に実施するとの計画が示されたようです。本町では、県や学校と協議しながら、本町の生徒に適した部活動のあり方を検討していくとの答弁がありました。あれから2年が経過したわけですが、その間の経緯と今後の方向性について、どう考えているのかを問います。以上、2項目についてよろしく申し上げます。</p>
議 長	<p>それでは、中平議員の質問のうち1項目め、島根フィルティーズの今後の活動について問う、に対する答弁を求めます。</p> <p>伊藤まちづくり推進課長。</p>
番外伊藤まちづくり推進課長	<p>ご質問の1項目め、島根フィルティーズの今後の活動について問うにお答えします。今年度から始動した女子野球で繋がるプロジェクトの起点となる島根フィルティーズは、いよいよ来月から監督、マネージャー、選手13名が、一般社団法人かわもと暮らしに所属し活動が始まります。本プロジェクトは、提案時から滞在人口、関係人口、交流人口といった新しい人の流れづ</p>

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

くりの推進。女子野球タウンや島根フィルティーズをタウンプロモーションにつなげるなど、地域創生の契機とすることを目的としており、議員ご認識のとおりであります。

今後の活動としては、4月12日に予定されているオープニングイベントを皮切りに、女子野球と地域活動に従事する予定としています。オープニングイベントは、悠邑ふるさと会館で、町民・スポンサー企業・来賓の皆様をお招きし、選手紹介やユニフォームのお披露目、島根フィルティーズグッズのプレゼントなどのイベント、午後は川本町民球場で島根中央高校女子硬式野球部とのオープニングゲームを計画中で、多くの皆様に周知、さらには応援していただくきっかけとなるよう、一般社団法人かわもと暮らしが主体となって準備を進めているところであります。

女子野球では、年間を通して開催される中四国ルビーリーグ、8月の全日本クラブ選手権、10月の全日本選手権、11月の西日本大会などへの参加を予定し、来シーズンはルビーリーグ3部リーグ優勝、各大会での上位進出を目指し、大会での活躍を通して本町のPRにもつなげていきます。地域活動においては、当面は地域イベントへの参加、スポーツ教室やイベントの企画・運営、ふるさと納税など町の情報発信、町内の団体や福祉事業者と連携し、子どもと高齢者の活動サポートなどを通じて、多世代との交流活動を予定しているところです。こうした活動を通じて、地域との関わりや経験を積みながら、段階的には空き店舗を活用した賑わいづくり、スポーツツーリズムでの交流人口創出、さらには町内外の事業者とのコラボレーションによる商品開発やグッズ販売などによる経済循環への波及にもつながるよう期待するところであります。

また、町として、来年度は、これらの活動とあわせて、3年目を見据えた選手のキャリア育成と人材を募集する事業者のニーズを把握した上で、定住や就職を希望する選手と事業者への支援の仕組みづくりを具体化できるよう取り組んでまいります。

いずれの活動も、チーム発足後の状況を見極めながら柔軟に進めてまいります。地域活動への参画、本町の魅力や島根フィルティーズの積極的な情報発信、そして全力で野球に取り組むことで、町民の皆様はもちろん、出身者や本町にご縁のある方など、多くの皆様とつながり応援していただけるチームづくりを目指してまいります。

議 長

中平議員。

3 番
中平議員

答弁ありました。実は、この島根フィルティーズの活動のことについては、昨年も数名の議員さんが質問されております。その時に1月から3月までに検討するとされたことの事項について、ちょっとお聞きしたいのですが、活動の拠点と試合のスケジュールはお聞きしましたが、活動の拠点となる場所、あるいは練習スケジュール、土曜・日曜の練習スケジュール、それとス

3 番 中平議員 議 長	<p>ポンサーの賛同の状況をまずお聞きしたいと思います。</p> <p>伊藤まちづくり推進課長。</p>
番外伊藤ま ちづくり推 進課長	<p>まず、活動の拠点です。練習の方は、川本町民球場の方を予定しております。特に午前中空いてる時間、この平日を主に活用して野球の活動拠点として動く予定となっております。それからもう一方、午後からの地域活動の拠点、事務所も含めたところだと、川下地域内にある空き店舗の方を貸していただいて活動拠点としていく予定としております。それから年間の試合は先ほど述べたところでございますが、これにつきましては、練習試合も含め、今後のチームの状況を見ながら、随時組み込んでいく。またホームページの立ち上げも予定しておりますので、そのあたりのスケジュールは、4月12日のイベント以降、公開していくこととなりますので、ぜひ応援のほどお願いしたいと思います。練習のスケジュールは、主には平日の午前中、先ほど言いましたように中心に組んでいきます。土日については、大会それから練習試合等、これは随時ですね、先ほど言いましたチームの状況を見ながら組んでいくこととなります。それからスポンサーの方ですけども、非常にたくさんの方の企業に広告スポンサーとして協力をいただいているということを知っておりますので、会社数でいきますと25を超えて、ちょっと最後細かいところ私も把握しておりませんが、25から30のところの企業の方に広告スポンサーとしてご協力いただいたということを知っております。</p>
議 長	<p>中平議員。</p>
3 番 中平議員	<p>大変まずもって失礼をしましたが、まずはこの4月からスタートするにあたり、13名もの選手が確保できたことについては、大変そのご努力に敬意を表するところでございます。ちょっと遅れましたが、それとこのスポンサーについては、今、町内というふうな認識でよろしいのでしょうか。それとも町外も含めての数でしょうか。</p>
議 長	<p>伊藤まちづくり推進課長。</p>
番外伊藤ま ちづくり推 進課長	<p>町外も含んでおりますが、8割から9割ぐらいが町内ということで把握しております。</p>
議 長	<p>中平議員。</p>
3 番 中平議員	<p>はい、まだ活動がスタートしてない状況から、よくたくさんの方のスポンサーがついたもんだと思います。また、今後活動が開始されるにあたって、さらに募集をしていただきたいと思います。</p>

3番
中平議員

まずですね、一般社団法人かわもと暮らしで所属するというのに答弁が
ありましたが、実際には当面、具体的にどのような活動をされるのか、割と
分かりにくくいろんなことに取り組むような答弁になっておりましたが、個
々にもうちょっと具体的なことがありますか。

議 長

伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

実際に地域おこし協力隊として平日こちらで活動するのは、12名となり
ますが、これが1人から2人のグループに分かれて数か所で業務に当たって
いくということになります。今想定しておりますのは、福祉施設、保育所も
含めたところでの、そういった子どもでありますとか高齢者のサポート活動
ということで川本福祉会ですとか、社会福祉協議会さんの方に受け入れ先にな
っていただいて、午後活動をするということ。それから、ふるさと納税の方
が川本町の方もここ数年ちょっと伸び悩んでおります。こちらの方をしっ
かりと情報発信できるような業務に当たっていくということ。それから、町
のまげなねっとの方もですね、もっと有効に活用したいというご意見もござ
いましたので、こういった情報発信のところに分かれて当たっていくという
ことになります。それから、最初の1年目、特に半年のところはですね、こ
ういった通常業務に加えて、これも議会の方からご意見いただいております
が、3年後を見据え、どう人材育成していくのかということでございますの
で、研修の方をですね、かなり専門的なキャリア支援をしていただく企業さ
んと連携を図りながら進めておりますので、そういった研修と、その前段で
申しました業務のあたりで、かわもと暮らしの方でコーディネートという
かマネジメントしていくと、そういった予定になっております。

議 長

中平議員。

3番
中平議員

はい、了解しました。今言われた地域との、具体的に事業者、福祉事業者
やの連携ということは答弁でございましたが、学校、小学校、中学校、中央
高校との関わりについては、どのようにお考えですか。

議 長

伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

将来的にはですね、そういったところとも関わっていきますし、当面その
イベント的に単発で関わることはあるかと思えます。ただ、定期的にしっ
かり受け入れていただけたらとなると、しっかり、そのどういいますか、組織
としてですね、仮にフィルティーズのメンバーが来れない時があっても、通常
通り運営できるような箇所への今業務を考えております。学校とか現場とい
うのもですね、特に生徒さんがですね動いておられるようなところには、要
望があれば関わっていきたいと思っております。

議 長 中平議員。

3番 中平議員 当然のことながら、中央高校の女子硬式野球部とは、いろいろ練習試合で
あるとか、通常の練習でも関わっていかれると思います。今月17日から全
国高校女子硬式野球大会、これがもう始まりますが、今年も50数チームの
うちの1つで中央高校が出場します。まだ始まっておりませんので、結果の
方は今からですが、ここの中央高校の女子硬式野球部についても、レベルア
ップが図れるように、ぜひお願いします。あと、全体との交流があれこれあ
りますけども、あそラボの活動への関わり、かわもとスポーツクラブとの関
わり、その他、中学校の部活動との関わりについてはどうお考えでしょうか。

議 長 伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま 今、中平議員の方からありました3つにつきましてもですね、状況を見な
ちづくり推 がら、ぜひ関わっていきなりたいなと思っています。最初に述べましたところは
進課長 ですね、やはり選手も今回、いわゆる高校なり専門学校なり卒業してくるの
が半分はおりますのでね、まずはしっかりと受け入れをしながら、状況を見
た上で、そういったところへ送り出していくことがいいかなということ考
えております。あそラボにしましても、スポーツクラブにしましても、中学
校の部活につきましてもですね、受け入れ先の方が求めていただけるという
ことと、選手のまずは半年の状況を見ながらですね、タイミングを見て、そ
ういったところにも出ていきながら、それぞれの活動のお役に立てるといい
かなと思っています。

議 長 中平議員。

3番 中平議員 本来の目的が、硬式野球部として川本の町をPRするためには、力をつけ
る、しっかり練習していただいて力をつけることが先決とは考えます。ただ、
地域の、今、最初に言われた研修を受けていただくとかいう点のところ
で、もう少し突っ込んで聞きますと、それぞれの事業所で仕事を将来していただ
くためのスキルですね、実際の国家資格であるとか、例えばケアマネジャー
とか今いろいろ福祉施設でほんのお手伝いができる程度の資格なんかも
あると思いますし、もっと深く勉強してやる資格もあるでしょうし、例えば
社会教育士とかにチャレンジされるような方がおられれば、そのまま残って
教育委員会の仕事でも引き受けてできる可能性もあるということがござい
ます。ぜひですね、もう2年目、3年目にかけてですね、そこら辺のところ
の視点も持ちながら、個々の選手の行きたい道、やりたいことに対してサポ
ートしていただけるようにいった方が、仮にこの町に残らなくても、本人に
とってはすごくいい経験にもなるし、よそでもすぐ仕事ができるということ

3番
中平議員

は感じております。ぜひその辺をよろしくお願ひします。2年目、3年目の話をしましたが、今後の選手募集についてですけど、この後の年間どのぐらい想定しておられますでしょうか。

議 長

伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

最終的には20人前後というところを目指しております。ですので、来年度のところは2期生は5人、そのあとも5人、初年度が13人確保しておりますので、このあたりは野球を続ける方との人数を見ながらになりますが、だいたい20人ぐらいを推移していく形がいいかなと思っております。

議 長

中平議員。

3番
中平議員

今までの説明の中で、特定地域づくり協同組合、この活動も視野に入れているというふうに聞いておりますが、具体的にはどのようなことを想定されていますか。

議 長

伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

特定地域づくり協同組合につきましては、選手の将来的な受け皿のひとつとして考えております。この他にも、もちろん企業への就職、できるならばアスリート企業という形で受け入れていただける企業があることがベースだと思いますが、なかなか一定の規模の企業じゃないとそういったことも難しいこともありますので、特定協同組合ということもひとつの選択肢としてはございますが、今のところですね、具体的にまだ、こういった業種でとか、こういう人たちに参画をいただいてということは検討に入れておりません。これは島根県内でも徐々にスタートしている町もあります。海士町は、全国でもいちばん多い組合、就業者数を抱えて、それでも20数名だったかなと思います。浜田の方が音楽に特化した協同組合ですとか、先日、浜田の中で農業に特化した組合なんかも作られておりますが、これはいずれもですね、その行政が主導して作ったものではなくてですね、それぞれの組合、介護事業者であれば介護事業者の方がやっぱり人材を確保するために動き出されている、農業であれば農業の方が中心で動き出されている。それに行政が支援する形で動き出していますので、そういった事例も参考にしながら今後ひとつの受け皿の選択として検討を深めていきたいと考えております。

議 長

中平議員。

3番
中平議員

分かりました。これからはフィルティーズの応援する機運を盛り上げるためにはどうしたらいいかというところをちょっとお聞きしたいんですが、川

3番
中平議員

本小学校6年生がですね、2月1日の学習発表会でフィルティーズを応援しようという取り組みの発表がありました。これについて何か所感がありますか。

議 長

伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

私もその発表をですね見させていただき、非常に感動といいますか、非常にうれしく思いました。このプロジェクト自体がですね、名前もそうなんですけど、女子野球で繋がるプロジェクトとしております。いろんな経済効果も含めて、いろんなところへ波及、波紋を起こしていく、そんなプロジェクトになることを想定してネーミングもしておりますが、小学生がですね、別にこちらからお願いしたわけでもない中で、探求授業として取り上げていただき、かなり深くですね、最近のAIなんかも活用して、さらにSNSの他のチームのフォロワー数、こういったところまで小学生が探求されてる様子に非常にうれしく思ってますし、今後もそういったつながりがですね、広がっていくことを期待するものを感じております。

議 長

中平議員。

3番
中平議員

私も見ておまして、また、昨日からちょうどまげなねっとの方で放送が始まっております。これで多くの町民に見ていただいて、この小学生の熱意が伝わるんじゃないかと思っております。2月1日の発表の際に、Instagramのフォロワー数、あれが800名ぐらいだったのが、昨日現在で1,154名まで伸びておるようです。当時のその時の小学生の目標は1,300名というふうに言っておりましたので、かなりもう目標は達成していくんじゃないかと思えます。ロゴマークというのはいまもうできていると認識しておりますけど、小学生が提案したマスコットキャラクター、これも結構いいものができておった気がしておりますし、応援ソングについても2曲発表されておりますが、こういうものを利用するような考えはないですか。

議 長

伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

せっかくいいものを考えてくれていますので、ぜひそういったものも活用していければいいなと思っております。今はちょっと先ほどの話に戻りますけども、やっぱり繋がるプロジェクトということでもありますので、フィルティーズがこういったものを利用するというのももちろんですが、事業者の皆様が、こういったものをですね、小学生が作ったんだよというようなものを商品化するなりしていただけるようなつながりがですね出てくることも、何かこう仕掛けというか、動きができればいいなと思っております。こういった、質問にありました、活用する気はないかということ、ぜひ活用したいんです

番外伊藤まちづくり推進課長 けれども、タイミングについてはですね、やはり一気に出すより、小出しするわけではないですけれども、通年を通して、やはりフィルティーズの活動を通して町がPRできるような動きにしていきたいと思いますので、タイミングを図りながらですね、今回小学生が作ってくれたマスコットキャラクターでありますとか、応援ソング、このあたりもですねタイミングを見ながら活用して、町のPRにつなげていきたいと考えております。

議長 中平議員。

3番 中平議員 ぜひ活用していただきたいと思いますし、また新たに今後もPR用のグッズ等の制作も新たなものを、何個あってもいいと思いますので、どんどん地元の方と協力してやっていただきたいなと思います。ひとつですね、今デジタルの拠点ができております、新たに。そういうところで高校生がデジタルに取り組むというところがございしますが、そういう方にも多少、どこから行けばいいかわかりませんが、そういうところにもちょっと依頼してみれば、新しい何かができ上がってくるんじゃないかなというような気もしております。もうひとつですけど、ふるさと納税に力を入れるというところがありました、これは私は、どちらかという与企业版ふるさと納税の方に力を入れて、フィルティーズ自身の活動資金を自らPRして、先ほどスポンサーとちょっと似てますけれども、あれとは別に集めたいというような気持ちがあるってのことじゃないかと思えます。その辺は、手法としてはどういった手法ですか。具体的に言うとWi11さんいんなんかとの連携はありますか。

議長 伊藤まちづくり推進課長。

番外 野坂町長 Wi11さんいんさんにつきましては、本町のふるさと納税の中間的支援業務というところを受託されている業者ですので、もちろんWi11さんとも共同して個人のふるさと納税も含めて増やしていくということになりますが、中平議員からご提案ありました企業版ふるさと納税、これにつきまして私も非常にチャンスがあるんじゃないかなと思っております。特にやっぱり女子スポーツという分野にですね、ご支援いただける企業さん、共感いただける企業さんは、全国にはあるんじゃないかなという想定をしております。ただ、これを進めていく手法につきましては、今、企業版ふるさと納税をマッチングするような専門的な業者さんも、金融機関などもやっておられますので、少しちょっとそういったところへ、まずひとつはアプローチしていく。また、役場、町長も既にそういう動きをしておられるところではありますけれども、行政からも直接そういったつながりのある川本町にご縁のある企業にアプローチをしていく、こういった2通りのやり方で進めていけないかなと考えておるところでございます。

議 長

中平議員。

3 番
中平議員

ふるさと納税、最近ちょっと低迷しておりますので、ぜひこれをきっかけにですね、ふるさと納税の方が増えるといいなというふうに思いますので、ぜひ頑張っていたきたいと思います。最後にですが、いよいよ4月からスタートするに当たりまして、町長の夢といたしますか、ここまではやりたいというような意気込みがあれば、お聞きしたいと思います。

議 長

野坂町長。

番外
野坂町長

女子硬式野球クラブチームのですね、4月の立ち上げ、ここまでですね、前途有望なですね13名のですね女性が、この町に集まっていたということとなつたということ、私、大変うれしく思っております。この動きに向けましてはですね、議会の皆様もですね、全面のご理解をいただいて、あるいはですね、4月にですね、森山監督就任いただいて、あるいはそのですね、かわもと暮らしのですね大久保、そして菅原様ですね、それぞれ3人力を合わせて、もちろんまちづくり課ですね、それぞれタグを組んで動いてきたということで、このことをプロセスのもとに今があるというのは、大変、私、いつも意識しております。もとよりですねこの取り組みといたしますのは、私、かねがねいろんな場で言いますが、やっぱ町が成り立ってきたですね歴史や先人のですね積み重ねのもとであります。繰り返しになっていきますが、そもそもやはり交流の町であったということ、そしてですね、これ女子教育のパイオニアと呼ばれた三上アイさんがですね、今から年が明けましたら118年前に邑智裁縫女学館というですね、そういうですね県下のですね私学のそういう教育機関を立てられて、正に女性活躍のですね、県下のモデルのような動きをされた町であるということ、そして中央高校のですね女子硬式野球部、この動きですね、やはりこの私どもの町がですね、先人が培ってきたそういう元に今のプロジェクトがある。こういうものによって立つプロジェクトであればですね、町民の皆さんも絶大なご理解をいただいているんですね、今回も多額のご寄附をいただいておりますし、先ほどですね議員もご紹介いただいた小学生のですね、ご提案などはですね、まさに私自身いろんな場で言っております、化学反応と4文字で言うわけですが、その1つのとてもすてきな好事例だというふうに考えております。ぜひですね、この動きをですね皆さんと一緒に前へ進めてですね、私どもの町ならではこの動きをですね、全国どこにもないものに仕上げていく、そのことが主導できる4月を迎えたいと考えております。ぜひ皆さんと一緒に、この動きをですね、さらに広めていきたいと考えております。以上でございます。

議 長

中平議員。

3番
中平議員
3番
中平議員

他の場所ではお聞きしたのは、ルビーリーグ一部で島根中央高校とフィルティーズが決勝戦をするんだというような、意気込みを耳にしたところもございました、なりませんでしたが、意気込みを伺ったところでございます。1つだけちょっとお願いをしたいことがあります。このフィルティーズの試合の日程だけでなく、今までの女子硬式野球部の試合、男子硬式野球部の試合あるいは練習試合、これの告知が非常に間際になってからあります。明日ありますとか、朝の放送で今日ありますとかあります。できるだけ分かった時点でですね、特に今度フィルティーズなんか特にそうですが、分かった時点で町民に告知をしていただくと予定が立てやすいのかなと。私の中ではこのフィルティーズをとにかく応援して、この当初の目的が果たせていけるように応援したいという気持ちでこの場に立っておりますので、ルビーリーグでも町民球場が応援の観客でいっぱいになるというようなことを将来望んでおりますので、よろしくお願いします。これで、1項目めの質問を終わります。

議長

以上で、1項目めの、島根フィルティーズの今後の活動について問う、の質問を終了します。

々

次に、2項目めの、中学校の部活動の地域移行について問う、に対する答弁を求めます。
宇山教育長。

番外
宇山教育長

中平議員のご質問の2項目めの、中学校の部活動の地域移行について問うについてお答えします。

令和4年12月にスポーツ庁・文化庁は、学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインを公表し、令和5年度から7年度を改革推進期間として位置付けて、公立中学校の休日の部活動の段階的な地域連携及び地域移行と環境整備を推進しています。また、地域連携や地域移行の達成時期は一律に定めず、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指し、段階的な体制整備を進めることで、スポーツ・文化芸術活動の最適化と体験格差を解消するとされています。

これを受け、県は、部活動が生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう、適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方について見直し、昨年2月に、部活動のあり方に関する方針を改定されました。また、同じく7月には、部活動地域移行検討委員会を立ち上げ、関係機関や市町村とともに、生徒にとってふさわしいスポーツ・文化芸術活動環境の構築に資する学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等について検討がされています。

本町においては、単独指導や引率が可能である地域指導員の配置はありませんが、県の地域連携指導員等活用支援事業を活用し、一部の部活動で地域

<p>番外 宇山教育長</p>	<p>指導者を配置するなど、学校と地域との連携を強めている段階であります。 今後は、今年度中に県が公表する予定の、島根県公立中学校における部活動の地域連携・地域移行に係る方針を受けて、本町の具体的な方向性について、学校や関係団体等と協議を進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>議 長</p>	<p>中平議員。</p>
<p>3 番 中平議員</p>	<p>まず、現状の川本中学校の部活動の状況、現状についてはどうでしょうか、お伺いします。</p>
<p>議 長</p>	<p>宇山教育長。</p>
<p>番外 宇山教育長</p>	<p>現在、川本中学校には、スポーツのクラブはバレー部・野球部・陸上部がございます。文化系では、吹奏楽部1つでございます。各クラス、約20名前後のクラスでありますので、部員の方は非常に少なくなっております。今、バレー部の人数しかちょっと思い浮かびませんが、バレー部現在たぶん9人で活動してるのではないかというふうに考えております。野球部の方もかなりかつかつなところで活動を行っているという状況でございます。陸上の場合は、個人競技ですので人数が少なくてもできるというところですよ。以上です。</p>
<p>議 長</p>	<p>中平議員。</p>
<p>3 番 中平議員</p>	<p>分かりました。令和4年9月でお伺いした時から、さほど動きがないなという印象を受けております。これ取り上げたのは、いろいろな中学校の父兄から最近の地域移行はどうなったんだろうかという声があったもんですから取り上げたわけですが、昨年の7月4日付の山陰中央新報を見ますと、23年度時点で地域移行のための計画を作成していない自治体が51%、全国で51%ですけど、島根県は83%、それから移行に必要な協議会も53%で設置したという記事がありました。川本町の現状はどうなってますか。</p>
<p>議 長</p>	<p>宇山教育長。</p>
<p>番外 宇山教育長</p>	<p>島根県は、国の動向を見ながら、令和6年度に基本方針の策定、それから令和7年度より具体的な取組方策を考えていく予定となっております。地域移行には指導者の報酬や事故が起こったときの補償の問題とか、教員がスポーツクラブの中に入って指導する場合の兼職の問題とか、様々な問題があると認識しております。本町は、県の動向を見据えながら検討していく予定としており、県の方針が現在のところ示されておりませんので、現在のところ、特に正式な協議は行っておりません。</p>

議 長 中平議員。

3 番 答弁で説明がありました部活動指導員、それから地域連携指導員、地域指導者、この3種類が連携に関わる指導員の種類だそうですが、先ほどの答弁にありましたように、部活動の引率までできる顧問の代わりができるというのは部活動指導員のみで、これは設置しておられないという答弁がありました。残りの2種類の指導員については、どういう状況でしょうか。

議 長 坂根教育課長。

番外坂根町 本町、川本中学校の方で活用しておりますのが、地域指導者という部分で民生生活課長 ございます。これは有償ボランティアによる方々で、対象の部活動は吹奏楽部でございます。顧問と一緒に生徒を指導しております。その他についての活用はございません。以上です。

議 長 中平議員。

3 番 はい、分かりました。ちょっと今後も協議していくことになるという方向性ではございますが、以前ちょっとお伺いしましたかわもとスポーツクラブを利用する方向性があるのかという質問に対して、指導者の養成、資質の向上が必須と回答されましたけども、その後スポーツクラブの方では、どのようなことを進められているとご存知でしょうか。

議 長 宇山教育長。

番外 先ほど申しあげましたように、まだ県の方針が決まってないので、具体的な進展というのはございません。学校における部活動の意義を考えますと、生徒のスポーツ、文化芸術に親しむ機会の確保、又は生徒の自主性、主体的な参加による部活動を通じ、責任感、連帯感の醸成、生徒同士や生徒と教師との望ましい関係の構築などがあり、部活動は、中学校生活にとって非常に重要な活動と考えております。しかし近年、生徒の減少も合わせまして、また部活動の指導は教員の業務としては必須ではありませんので、学校の働き方改革が進む中で教員の善意にいつまでもすぎることは難しい時代に来ていると感じております。これも前回と同じ回答になるとは思いますが、現在、川本には23年の3月に設立をして14年になります、総合型スポーツクラブ、かわもとスポーツクラブがございます。部活動の、先ほど申しあげました部活動の意義を考えますと、現時点でスポーツ活動をスポーツクラブに移行してお願いすることにつきましては、スポーツクラブの指導者もボランティアの指導者の献身的な活動のおかげで成り立っております。より競技

番外
宇山教育長 性が高くなることと、事故等も懸念され、専門性も求められるため、これ以上の負担を強いることは難しいと考えております。とは言いましても、現在、川本町の受け皿として考えられるのは、かわもとスポーツクラブしかないと考えております。中学校ともしっかり協議した上で、今後の部活動の地域移行の方向性については、一緒に考えていかなければならないというふうに考えております。

議 長 中平議員。

3番
中平議員 私もスポーツクラブの中でジュニアバレーの指導、今年で4年目になります、宇山監督のもと一緒にやっておるわけですが、スポーツクラブの、特にバレーと野球ですけれども、これが小学校の時に大変いい成績を残したものが、一昨年の中学野球の中国大会ベスト4、今年の新人戦の女子バレーの県2位、中国大会出場、そういったものにつながっております。そういうところでは地域移行にはなかなかならないかもしれませんが、このスポーツクラブ自体は、今川本町の町にとって大事な団体でございますので、ぜひ今後も底辺の育成についてですけれども、中学校の部活動の移行とは、ちょっと話がそれますが、少し目をかけていていただきたいなというふうに考えております。以前もちょっと、お話したところですが、休日には部活動を休んだ方がいいんじゃないかという見解もどこかで耳にしたことがありますが、現状はどういった方向性が出ておるのでしょうか。

議 長 宇山教育長。

番外
宇山教育長 隣的美郷町では、今始まってるかどうかってちょっと定かじゃないですけど、来年度より土日の部活動はすべてやめるという決定をしておられます。美郷町は、国と県の助成を受けて実証実験をされ、協議会も立ち上げて、部活動の部分については、非常に先進的な動きをされておられます。美郷町や実証実験をされた町村の状況を見ながら、本町も考えていきたいと思っておりますが、現状のところ、土日2日続けてやるというのは基本的にはないんですけど、土曜日か日曜日、1日必ず休むんですけど、現状のところは、土曜日か日曜日、どちらかやるという方向でいく予定としております。

議 長 中平議員。

3番
中平議員 はい。分かりました。先ほどの答弁の最後にございましたように、これもちょっと遅いとは思いますが、県が公表する予定の公立中学校における部活動の地域連携・地域移行に関わる方針、これがなんかやっとなってきたという印象を受けておりますが、そういったものが出てきたところではございませけれども、本町の具体的な方向性について、学校や関係団体等と協議を進め

3番
中平議員

ていきたいという答弁がございましたので、ぜひ、積極的に協議を進めて、本当にこの川本中学校の部活動の子どもたちにとっていい形の、地域移行に行く行かんは別としてですね、いい部活が活動できますように思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。以上で、質問を終わります。

議 長

以上で、2項目めの、中学校の部活動の地域移行について問う、の質問を終了します。

々

これをもちまして、中平議員の一般質問を終了します。

々

ここで、暫時休憩します。（午後）2時より再開します。

（午後1時46分）